



加齢のふりしてやってくる^{しんぞうべんまくしょう}心臓弁膜症

内科 医師 ^{いよべ}伊與部 ^{けんた}拳太

『加齢のふりしてやってくる、心臓弁膜症。気になったら、医師に相談を。』俳優の草刈正雄さんが登場するTVCMや新聞広告を見たことがある人は多いと思います。

心臓には、右心房、右心室、左心房、左心室と4つの部屋があり、各部屋の出口には血液逆流防止のために弁がついています。さまざまな原因によってこの弁がうまく機能しなくなった状態を心臓弁膜症といい、弁が硬く狭くなった状態を^{きょうさくしやう}狭窄症、弁がうまく閉じなくなると血液が逆流してしまう状態を^{へいさふぜんしやう}閉鎖不全症といいます。

原因としては、感染、外傷、先天性の問題などがありますが、現在は高齢者の増加に伴い、加齢が原因で弁の変性や石灰化が起こり弁膜症になる人が増えてきています。日本では65～74歳で約150万人(8.5%)、75歳以上で約245万人(15%)の潜在患者がいると言われています。

心臓弁膜症は心不全の原因の一つですが、初期段階では自覚症状が現れないことがほとんどです。しかし、進行することで心臓に徐々に負担がかかっていき、さらに進行するとさまざまな症状を自覚するようになります。よく見られる症状としては身体を動かしているときの息切れです。階段を上ったり、運動をしたりするときに、今までよりも疲れやすく感じるようになって

ていき、進行すると軽い動作などでも息切れや呼吸苦が出現するようになります。また、胸がドキドキしたり、めまいやふらつき、失神、全身の倦怠感などが出たり、心不全症状として足がむくんだりすることもあります。

心臓弁膜症の診断は、まず問診で自覚症状の聞き取りをして、聴診で弁膜症特有の心雑音があるかどうかを調べます。弁膜症が疑われる場合は、心エコー検査により心臓の収縮力や弁の狭窄、逆流がどのくらいあるのかを調べていきます。弁膜症の症状が軽いうちは心不全が起きないように血圧を下げる薬や利尿剤、血液を固まりにくくする薬、心臓のリズムを整える薬などで心臓の負担を減らしながら経過観察を行っていきます。症状がどんどん進んでいき、薬でのコントロールが難しくなってくると弁を取り換える必要がでてくるため、胸を開いて行う外科的手術やカテーテル治療などを行う場合があります。

心臓弁膜症の予防のためには、高血圧や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病対策や禁煙などが重要になってきます。日頃から適度な運動や食事療法、禁煙などにより生活習慣を整えていくことが一番の予防となります。早期予防、早期発見が心臓弁膜症の治療では重要となりますので、体の変化を感じたら循環器内科へ相談してみてください。

12月の救急医療機関

	外科休日当番医 (8:30～翌8:30)	歯科休日当番医 (9:00～12:00)	電話番号	住所
5日(日)	市立病院	スマイル歯科	0125-74-5028	滝川市本町2丁目4-25
12日(日)	滝川脳神経外科	神山歯科医院	0125-32-2575	赤平市錦町1丁目3
19日(日)	市立病院	伊東歯科医院	0164-23-5501	深川市2条7番29号
26日(日)	滝川脳神経外科	しらかば歯科	0125-76-4181	新十津川町中央308-16

▶ 12月29日(水)～1月3日(月)の年末年始の救急医療情報はP14に掲載しています。

※市立病院…Tel 22-4311/ 大町2丁目2-34 滝川脳神経外科…Tel 22-0250/ 西町1丁目2-5

休日の内科・小児科の診療は市立病院で受け付けます(8:30～翌8:30)。

平日の時間外診療の協力医療機関については当番病院案内ダイヤル(Tel 22-2299)でお知らせします。